

西林木町の蓮光寺の背後にある山が「山崎山」と呼ばれてい
ます。

昔、戦国時代に鳶が巢城があった頃、伊努谷をはさんだ西方の
山に出城を築いて鳶が巢城を守ったという言い伝えがあります。

当時の情勢から考えられる事は、「山崎姓」の家臣がその出城の
大将だったと推定すると、その家臣の名から出城のある山を「山
崎山」と呼んだものと思います。

また、「山崎山」の西の谷が鍛冶屋谷と呼ばれるようになったの
は、戦国時代、鳶が巢城の麓の鍛冶屋谷で刀鍛冶が行われていま
したが、戦が治まり御用が無くなった鍛冶師達は、日下境の現在
地に移住したため、鍛冶屋谷と呼ばれるようになったのではない
かとの古老の説です。

現在、山岳城「山崎山」の調査は行われておらず、縄張り図な
どの詳細は不明ですが要塞として見ると水源もあり機能は十分に
備わった砦であつただろうと考えられます。

そんな伝説を裏付ける確証として、蓮光寺上に大黒様が祀つて
あります。

なお、山崎の姓を名乗った鳶が巢城の武将が鳶が巢山の北方・
「ふるや谷」に住んで鳶が巢城の水源を守っていたという伝説が
あり、その子孫が出雲大社町で現存されているらしいとの話を
古老が話してくれました。

また「山崎」姓は西林木では二十軒以上あります。当地では鳶
が巢城主安道氏ゆかりの武将とつながる姓が多いといわれていま
す。そして、昔から旧家として知られている門名「下若宮」も武
将「山崎」の子孫だと言われています。

明治までの「山崎山」は、西林木村の山として管理されていま
したが、事情があつて村の山は川跡へ権利が委譲され現在は川跡
の共有林として管理されています。

